松江総合医療専門学校　学校関係者評価委員会

１．日　時：令和６年６月 14 日（金）　10：30～12：00
２．出席者：【委員】　上田　正樹、小林　央、横川　隆子、兼折　功一（欠席）、
松浦　幸嘉、荒瀬　朋子（欠席）
【学校】　理事、学校長、副学校長/作業療法学科学科長、事務局次長
理学療法学科副学科長（代理）、看護学科学科長、経理課長、
総務グループリーダー、教務グループリーダー

３．次　第：　・開会
・学校長　挨拶
・出席者紹介
・令和５年度 事業報告
・令和５年度 自己評価
・学校概要
・質疑応答
・閉会

次第に沿って進行し、意見交換、質疑応答を行った。

■意見交換、質疑応答
【Ａ委員より】
・退学する学生の主な理由は何か。
（回答）
・成績や経済的な理由で退学する学生はほぼいなかった。
・様々な対応をしていたがメンタル面の理由での退学があった。今後も一層学生ひとりひとりに密に関わるよう学校全体で取り組み、様々な悩みを持つ学生のサポートを続けていく。

（A 委員）
・学生募集について、学校ガイダンスに学生が出向くことで学生生活のイメージを持ってもらい、実際に学生の声を聞くことで高校生に興味を持ってもらえるのではないか。
（回答）
・新しいアイデアをいただき大変ありがたい。授業との兼ね合いはあるが、積極的に取り組んでいきたい。

【Ｂ委員より】

・昨年度と比較し、様々な取り組みが行われ向上がみられると考える。

・実習施設として、職種の理解と魅力をしっかりと伝えていきたい。病院にも出前講座の依頼は来ているが、業務上出向くことが難しい現状の中、松江総合医療専門学校が松江市の派遣事業に参画してもらっている事は大変ありがたく思っている。

【Ｃ委員より】

・学校が掲げた重点項目は、様々な課題をもとにできた施策と考えている。特に学校の魅力向上で重要な国家資格取得率 100％を教職員全員で目指し、サポート体制を徹底していただきたい。

・退学を考えていた学生が周りのサポートで卒業して現場へ出た時、学生時代の経験から患者さんや同僚に対して配慮ある接し方ができ、後輩へも良い指導ができると思う。また、人にしかできない相手の気持ちの理解や接し方、コミュニケーションの取り方等、ＡＩ時代にも対応できるよう授業や実習の中で指導を継続していただきたい。

（回答）

・挫折から立ち直って無事に卒業した学生が、現在臨床現場で実習指導者として大変丁寧に学生指導をしてくれている。学生時代に色々悩んで卒業した学生だからこそ、Ｃ委員が言われたように学生の気持ちがわかる良い指導を行ってくれているのではないかと思う。今後も学生へのサポートを丁寧に行っていきたい。

【Ｄ委員より】

・1 年早く 3 年間で資格取得できることを、もっとアピールしてはどうか。万が一国家試験が不合格だった場合、松江総合医療専門学校は、手厚いサポートや就活サポート等を実施しており、再チャレンジで合格する体制についても評価できる。

以上

【外部委員】6名

部　門	氏　名	所　属
職域代表（理学療法士）	上田　正樹	松江市立病院 リハビリテーション部　部長
職域代表（作業療法士）	小林　央	島根県作業療法士会　会長
職域代表（看護師）	横川　隆子	島根県看護協会
地域代表	兼折　功一	大野地区社会福祉協議会　会長
有識者代表	松浦　幸嘉	しまね信用金庫　事業支援部　部長
卒業生代表	荒瀬　朋子	マザリー産科婦人科医院　助産師

【内部委員】9名

理事	安藤　瑞也
学校長	松浦　昌代
副学校長/学科長（作業療法学科）	片山　優子
事務局次長	須谷　浩一
学科長（理学療法学科）	内田　武
学科長（看護学科）	石倉　清乃
経理課長	松本　泰洋
総務グループリーダー	藤原　ゆき絵
教務グループリーダー	野津　慶子